

日本語と韓国語の受身表現

— 日韓対訳小説のデータ分析を中心に —

尹 亭 仁

1 はじめに

日本語と韓国語の「受身表現」¹⁾に関する対照研究では、しばしば (1), (2) のように自動詞のスルに対して韓国語は同じ自動詞の「하다」ではなく受身形の「되다」が対応する現象を取り上げている。

(1) k. 19 세기 初葉 印度・欧羅巴 語族이 確立된 뒤로 系統的 分類 作業이 여러 大陸 과 大洋의 語語에 波及되었다. (国語史)

j. 十九世紀初葉インド・ヨーロッパ語族が確立した後、系統的分類 作業が諸大陸と諸大洋に波及した。(日本語版国語史)

(2) k. 日本 北部에서 지금은 거의 消滅된 아이누 語는 系統上 孤立되어 있다. (国語史)

j. 日本北部で現在は殆ど消滅したアイヌ語は系統上孤立している。(日本語版国語史)

また一方の研究では、「韓国語での受動文は日本語に比べ非常に使用範囲が狭い」または「韓国語は能動的な表現が好まれるため、日常生活の中では被動文²⁾の使用頻度が低い」という、言い換えれば、韓国語は日本語に比べ受身形または受身文を用いない、という見解が出されている。

本稿では、両語の小説の中で実際使われた受身表現を用い、その使用状況を調べて、上記のような捉え方と (1) と (2) のような例文の存在が両語の受身のどういう特徴を反映しているかを明らかにしたい。

2 先行研究の考察

日本語の自動表現に対して、韓国語の場合受身表現が対応している現象をいち早く取り上げたのは生越 (1982) である。生越 (1982) は (1) と (2) に見られるように自動詞のスルに対して韓国語はⅢ類の受身形「되다」が対応する例を取り上げ、韓国語において能動形「하다」と受身形「되다」の区別は主語がその「動作の動作主」であるか否かによるものと述べている。それ以降、辛 (1993)、鷲尾 (1998)、生越 (2001a)、生越 (2001b)、尹 (2002) など幾つかの対照研究が行われたが、いずれもⅢ類の受身形、とりわけ両語の漢語動名詞 (Verbal Noun) におけるスルと「하다」・「되다」の対応関係に焦点が集中していた。このような対応関係を図で示すと、(3) のようになる。

(3) 漢語 VN スルと漢語 VN「하다」および漢語 VN「되다」の対応関係

漢語 VN スル (能動形) ⇔ 漢語 VN 하다 (能動形)

⇔ 漢語 VN 되다 (受身形) ⇔ 漢語 VN サレル (受身形)

尹 (2002) では、両語の間にこういう関係が成り立つのは、接辞スルが有する意味特徴、すなわち「非対格性」と「非能格性」の二重性によるものと述べている。日本語の自他両用動詞の場合、自動詞に韓国語は (4)～(6) のように受身形の「되다」が対応していることについてもスルが有するこの意味特徴と関連付けて説明している。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (4) a. 制限を緩和する。(辞) | 制限을 緩和하다. |
| b. 寒さが緩和する。(辞) | 추위가 緩和되다. |
| (5) a. 彼女は長年の夢を実現した。(用法) | 그녀는 오랜 꿈을 實現했다. |
| b. 希望が実現する。(辞) | 希望이 實現되다. |
| (6) a. 書きかけの作文を完成した。(用法) | 作文을 完成했다. |
| b. 作品が完成する。(用法) | 作品이 完成되다. |

さらに、韓国語は (7) と (8) のような有対自動詞の場合も受身形で対応することが多い。

- | | |
|--|--|
| (7) j. …ぶらりと顔のまん中からぶらさがっているのである。(鼻) | |
| k. …대롱대롱 얼굴 한복판에서부터 매달려 있는 것이다.(코) | |
| (8) j. …困難を極めた入門までの過程も、古竹の記憶の中では一生消えない恨みにも似た光の中に包まれていた。(金翅鳥) | |
| k. …어렵고 어려웠던 입문의 과정도 고죽의 기억 속에는 일생을 | |

가도 씻기지 않는 한과도 흡사한 빛 속에 싸여 있다. (금시조)

ここまでみ見てきた (1)~(8) のようなヴォイスの対応関係から、韓国語は日本語より受身形が多く用いられている、という見方が可能であると思われる。

ところが、最近このような現象と矛盾しているような見解も出されている。許 (2001), 金 (2001), 鄭 (2002) などが挙げられる。まず、許 (2001) では、日本と韓国のテレビドラマを一本ずつ選び、それらの会話文での受身の使用率を調べ、韓国語の方が日本語の 3 分の 1 程度に過ぎなかった、という分析結果を提示している。しかし、これは同一のドラマを分析した結果でないため、両語の受身文の使用に関するデータとして用いる場合は注意が必要であると思われる。本稿の第 4 節の小説データの分析から分かるように、ドラマや小説はどのような事柄が取り上げられるかによって受身の使用が大きく異なるからである。また金 (2001) では、「視点对象の一貫性のため主語を固定する傾向が強い日本語は、動作主体中心で談話構成をする韓国語に比べ、受動文が多く用いられる」、さらに鄭 (2002) では「韓国語での受動文は日本語に比べ非常に使用範囲が狭い」と述べている。金 (2001) と鄭 (2002) のような見方からは (1)~(8) のような例はどう説明できるだろう。

本稿では、このように一見矛盾するようにも思われる両語の受身文の捉え方を確認すべく、日本語と韓国語で書かれた中短編小説をそれぞれ5編ずつ選び、それをそれぞれの対訳本と照らし合わせながら受身文の対応の様相を調べた。両語の受身文の対応関係の内訳は第 4 節の<表 4>と<表 5>の通りである。小説という限定されたジャンルのデータ（以下では、この調査で得られた受身文に関するデータを<<データ>>と記す）ではあるが、韓国語は日本語より受身形を多く用いている、という結論となり、(1)~(8) のような対応関係の根拠が得られた。しかし、これが直ちに「韓国語は日本語より受身文を好む」、ということには至らない。また、金 (2001) や鄭 (2002) の考察が全面否定されるものでもない。以下では、<<データ>>を拠り所にしながらこの結論の根拠を次のような順序で取り上げていく。それによって、韓国語の方が日本語より受身形が多く用いられているような現象と、この現象と異なる見方がどうして共存しているのかが明らかになるとと思われる。

第 3 節では、韓国語の受身形式の特徴を取り上げる。

第4節では、日韓対訳小説のデータを分析する。

第5節では、韓国語の受身表現に対する日本語の対応関係を取り上げる。

第6節では、日本語の受身表現に対する韓国語の対応関係を取り上げる。

第7節では、本稿の考察をまとめる。

3 韓国語の受身形式の特徴

《データ》の分析に入る前に、日本語より形態的・統語的に複雑な様相を呈している韓国語の受身形式を見てみよう。

3-1 韓国語の受身形式

韓国語の受身文は3種類ある。以下では、それぞれを「Ⅰ類の受身文」「Ⅱ類の受身文」「Ⅲ類の受身文」と呼び、その同定の基準となる形態を「Ⅰ類の受身形」「Ⅱ類の受身形」「Ⅲ類の受身形」と呼ぶ。

3-1-1 Ⅰ類の受身形

「Ⅰ類の受身」は、固有語の他動詞語幹に受身接辞「-이-, -히-, -리-, -기-」が付加することによって受身動詞が派生される方法である。

(9) 固有語他動詞 + -이-, -히-, -리-, -기- > Ⅰ類の受身動詞

(10) a. 전철 안에서 발을 밟히다.

電車の中で足を踏まれる。

b. 매점에서 재경이는 아이들에게 둘러싸여 있었다. (식사)

売店で載京は子供たちに囲まれていた。(食事)

(10a) の「밟히다 (踏まれる)」は他動詞語幹「밟- (踏む)」に受身接辞「-히- (られ)」が付加することによって派生されたⅠ類の受身動詞であり、(10b) の「둘러싸이다 (囲まれる)」は他動詞語幹「둘러싸- (囲む)」に受身接辞「-이-」が付加することによって派生されたⅠ類の受身動詞である。

3-1-2 Ⅱ類の受身形

「Ⅱ類の受身」は、固有語の他動詞語幹に受身接辞「-어/아지다」が付加することによって受身動詞が派生される方法である⁹⁾。

(11) 固有語他動詞 + -어/아지다 > Ⅱ類の受身動詞

(12) a. 종이비행기가 만들어지다.

紙飛行機が作られる。

b. 늘 사람들 손에 구겨져 쓰레기통에 버려지곤 했죠. (사슴)

いつも人の手によってしわくちゃになってゴミ箱に捨てられたり
しました。(鹿)

(12a) の「만들어지다 (作られる)」は固有語の他動詞語幹「만들- (作る)」に受身接辞「-어지다 (られる)」が付加することによって派生されたⅡ類の受身動詞であり, (12b) の「버리어지다 (捨てられる)」は固有語の他動詞語幹「버리- (捨てる)」に「-어지다」が付加することによって派生されたⅡ類の受身動詞である。

3-1-3 Ⅲ類の受身形

「Ⅲ類の受身」は, 「動作性名詞+하다 (する)」からなる動詞に接辞「-하다」に替わって受身接辞「-되다 (される)」「-받다 (される)」「-당하다 (される)」「(C群)」が付加することによって受身動詞が派生される方法である。

- (13) 動作性名詞 + 하다 + 되다 > Ⅲ類の受身動詞 (A群)
動作性名詞 + 하다 + 받다 > Ⅲ類の受身動詞 (B群)
動作性名詞 + 하다 + 당하다 > Ⅲ類の受身動詞 (C群)

(14) a. 범인이 체포되다.

犯人が逮捕される。(A群)

b. 성 선생님이 많은 학생들로부터 존경받다. (B群)

成先生が多くの学生から尊敬される。

c. 모르는 사람에게 살해당하다. (C群)

見知らぬ人に殺害される。

(14abc) は「逮捕-하다」「尊敬-하다」「殺害-하다」のような「動作性名詞+하다」からなる動詞にそれぞれ意味的・統語的特徴によって受身接辞「-되다」「-받다」「-당하다」が付加され「逮捕-되다」「尊敬-받다」「殺害-당하다」というⅢ類の受身動詞が派生された。

ここまで, 韓国語の3種類の受身形式を見てきたが, 韓国語はなぜこのように受身形式が多様であるのだろうか。受身形式が多様であるのは, 一つの形式が不完全である, または安定していない, 言い換えれば受身形式に共起制約が多い, ということになると思われる。以下では, 韓国語の3種類の受身形式がそれぞれどういう制約を持っているのかを見てみよう。

それによって、韓国語の3種類の受身形式の共存の理由が明らかになると思う。

3-2 韓国語の受身形式の制約

3-2-1 I類の受身の場合

「밟히다 (踏まれる)」, 「둘러싸이다 (囲まれる)」などのI類の受身形式の大きな特徴は「非生産性」である。三つの受身形式の中で、「一番典型的」と言われてはいるものの、「語彙的」と呼べるほど特定の動詞だけが受身形に派生できる。その数の少なさは幾つかの研究で取り上げられてきたが、全部で200個を超えない。筆者が5年以上、小説、新聞、雑誌、随筆などから採集したI類の受身動詞は157個に過ぎない。この数には「둘러-싸이다 (囲まれる)」, 「붙-잡히다 (捕まえられる)」のような複合動詞も含まれている。韓国語の動詞の数がどれくらいあるかは定かではないが、これはあまりにも少ない数である。また、動詞によっては受身と見做せないほど受身の意味が希薄な例も多々見られた。さらに、その用法がまれにしか見られない動詞もある。

3-2-2 II類の受身の場合

II類の受身形式は多くの論文で制約なく受身動詞が派生できると述べられている。例えば、南基心(2001:307)では次のように述べられている。

‘-어지다(-아지다)’에 의한 피동은 별반 큰 제약이 없이 거의 모든 동사에 쓰인다.

‘-어지다(-아지다)’による受身は、特に大きな制約がなくほぼあらゆる動詞に使用される。(訳は筆者)

しかし、実際のところ、II類の受身形も大きな制約を持っている。それは、対格標示の名詞句(NP)とは共起できない、という点である。対格標示のNPが共起する受身文より共起しない受身文が多いため、すなわち3項動詞より2項動詞構文が多いため、目立たない一面がある。しかし、これは大きな制約であり、《データ》の分析からも明らかである。本稿の第6節での考察で浮き彫りになるが、この特徴は日本語の受身文の生産性、言い換えれば、韓国語との非対応の一因となっている。生越(2003)から関係のある例を引用してみよう。

(15) k. 사장님이 나에게 그 일을 주셨다.

→*나는 사장님에게서 그 일을 주어지었다.

j. 社長が私にその仕事を与えた。

→私は社長からその仕事を与えられた。

日本語は (15j) のように、対格標示の NP と受身形が共起しうるが、韓国語の場合、(15k) のように受身文が成り立たない。その理由は幾つかの観点から論じられるが、まず言えることは、受身接辞「-어/아지다」と「그 일을」という対格標示の NP との共起関係である。文型を変えてみよう。

(16) k. 사장님이 나에게 그 일이 주셨다.

→사장님으로부터 나에게 그 일이 주어지었다.

j. 社長が私にその仕事を与えた。

→社長から私にその仕事が与えられた。

(16k) のように、対格標示の「그 일을」を主格標示の「그 일이」にすることによって、受身接辞「-어지다」との衝突が避けられ、文は文法性を獲得した。以下の例も対象が主格標示であるため成り立った受身文である。これは、受身接辞「-어지다」の後項をなす「지다」が本動詞として持つ意味・統語的性格と関係がある。

(17) k. 내게는 한 달의 기한이 주어졌다. (마당)

j. 私には一ヶ月の期限が与えられた。(庭)

(18) k. 그러나 기회가 주어진다면 언제든 떠날 태세인 건 이길성 역시 마찬가지였다. (등대)

j. しかし機会が与えられたら、いつでも… (灯台)

「非生産性」という制約が目立っていた I 類の受身形の場合、返って「全体一部分」の関係を成す構成であれば、(19) と (20) のように対格標示の NP と共起できる。

(19) k. 아가씨에게 배를 걷어차인 스피츠가 캥캥거리면서 우는 소리를 냈다. (식사)

j. お嬢さんにお腹を蹴っ飛ばされたスピッツが… (食事)

(20) k. 곧 뒤따라나온 최에게 그녀는 팔목을 억세게 붙들린다. (배드)

j. すぐ追っかけてきた崔に彼女は手首を強く捕まえられる. (バド)

3-2-3 III類の受身の場合

III類の受身形は、例 (14) で見たように、「逮捕」「尊敬」「殺害」など主

に漢語 VN を中心とする NP にしか接続できない。固有語の場合、次のような例が挙げられるが、漢語 VN の生産性に比べると、僅かな数である。

(21) a. 마감하다 (締め切る) → 마감되다 (締め切られる)

b. 되풀이하다 (繰り返す) → 되풀이되다 (繰り返される)

ここまでの考察から、韓国語には 3 種類の受身形式があるが、それぞれ大きな制約を持っていることが分かった。それを纏めると<表 1>のようになる。

<表 1> 韓国語の受身形式の共起制約および生産性

	I 類	II 類	III 類		
	-이히리기-	-어/아지다	-되다	-받다	-당하다
動詞に接続	○	○	×	×	×
(動) 名詞に接続	×	×	○	○	○
対格 NP との共起	△	×	×	○	○
語種 (固有語)	○	○	△	△	△
語種 (漢語)	×	(△)	○	○	○
生産性 ⁴⁾	×	○	○	△	△

このように、韓国語の受身形式は複雑な様相を呈していて、しかも制約も一様ではないため、その形式の認定をめぐる研究者によって意見が分かれている。それを幾つか紹介すると (22) のようになる。

(22) 受身形式の認定をめぐる観点

I 類だけ	任 (1978), 李 (1991), 禹 (1997)
I 類+II 類だけ	南・高 (1985), 南 (2001)
I 類+II 類+III 類	崔 (1929/94), 塚本・鄭 (1993), 権 (1994, 1998), 李・蔡 (1999), 許 (2001), 金允信 (2001)

本稿では、この三つの派生方法を認める立場で論を進める。韓国語の受身形は<表 1>から分かるように、相互補う形で存在しているため、受身文の特徴を浮き彫りにするためには全体として捉える必要があるからである。

4 日韓対訳小説のデータの分析

前節では韓国の受身形の複雑さ、多様さを見た。これを考慮に入れながら、日韓対訳小説の分析に入ろう。

4-1 対象作品

本稿で分析対象として選んだ小説は、両語ともに5編ずつ、全10編である。韓国語に翻訳された日本の小説（以下、「日→韓小説」と称する）は主に有名作家の短編が多かったのに比べ、日本語に翻訳された韓国の小説（以下、「韓→日小説」と称する）は近年話題になった作家または作品が中心で、中篇が多かったのが一つの特徴である。

4-1-1 日→韓小説

5編はいずれも男性作家によって書かれたものであり、韓国語への翻訳は主に出版関係者によるものが多い。「韓→日小説」より意識が目立つ。時代も80年ほどの隔りがある。作品の内訳は<表2>の通りである。

<表2> 「日→韓小説」の内訳

作品	略名	年度	作家	韓国語訳名	略名
鼻	鼻	1916	芥川龍之介	코	코
伊豆の踊り子	伊豆	1927	川端康成	이즈의 무희	이즈
畜犬談	畜犬談	1939	太宰 治	바둑이 이야기	바둑이
TVピープル	TV	1989	村上春樹	TV피플	TV
或る恋の物語	或る恋	1996	村上 龍	어느 사랑의 이야기	어느

4-1-2 韓→日小説

5編の中で「金翅鳥」を除いては、女性作家によって書かれたものであり、韓国文学の研究者による翻訳が多い。時代は20年ほどの隔りしかない。作品の内訳は<表3>の通りである。

〈表 3〉韓→日小説の内訳

作品	略名	年度	作家	日本語訳名	略名
금시조	금시조	1982	李文烈	金翅鳥	金翅鳥
꿈	꿈	1993	孔枝泳	夢	夢
배드민턴을 치는 여자	배드	1993	申京淑	バドミントンをする女	バド
하나코는 없다	하나코	1994	崔 允	ハナコはいない	ハナコ
아내의 상자	아내	1998	殷熙耕	妻の箱	妻

4-2 日本語と韓国語の受身文と受身率

「日→韓小説」5編と「韓→日小説」5編の受身文の内訳は〈表 4〉と〈表 5〉の通りである。〈データ〉を見ると、韓国語の受身形の使用が目立つことが分かる。本稿では、受身文の相対的対応関係を表わすものとして、「受身率」という用語を用いることにする。

4-2-1 受身率

「受身率」は、一つの作品に使われた受身形と他の言語作品に翻訳された場合に使われた受身形との割合を示す。「日→韓小説」および「韓→日小説」の受身率を見てみよう。〈表 4〉と〈表 5〉を見ると、韓国語の方が日本語より受身率が高い、言い換えれば受身形が多く使われていることが分かる。この結果は、翻訳者の翻訳スタイルによって多少の差が出るにしても、一つの傾向として言えると思われる。全 10 作品の中で、村上春樹の「TV ピープル」が 3 倍近い受身率を見せるのは注目に値する。これにはある動詞の多用、すなわち両語の受身において語彙レベルの問題が関わっている。第 5 節で触れる。また、太宰治の「畜犬談」だけが受身率が低いのは、両語の受身文の生産性、すなわち統語レベルの問題が関わっている。これについては第 6 節で触れる。

4-2-2 受身形式と受身率との関係

今回の調査では、日本語の受身文と韓国語の三つの受身形式との対応関係にも注目してみた。その結果は〈表 4〉と〈表 5〉の「両方が受身形」の列を参照されたい。

<表4> 「日→韓小説」の受身率

作品名	作家	日本語	韓国語訳	受身率	%			両方が受身形			%			日本だけが受身形	韓国だけが受身形	%				
					I類	II類	III類	I類	II類	III類	I類	II類	III類			I類	II類	III類		
鼻	芥川龍之介	16	25	156.2	I類	11	44.0	12	4	33.3	4	33.3	4	33.3	I類	7	50.0	I類	7	50.0
					II類	8	32.0		4	33.3		4	33.3	II類	4	28.6	II類	4	28.6	
					III類	6	24.0		4	33.3		4	33.3	III類	3	21.4	III類	3	21.4	
					A	6			A	3			A	3		A	3			
					B	0			B	1			B	0		B	0			
					C	0			C	0			C	0		C	0			
伊豆の踊子	川端康成	26	57	219.2	I類	32	56.1	13	6	46.1	6	46.1	6	46.1	I類	26	60.5	I類	26	60.5
					II類	13	22.8		5	38.5		5	38.5	II類	8	18.6	II類	8	18.6	
					III類	12	21.1		2	15.4		2	15.4	III類	9	20.9	III類	9	20.9	
					A	9			A	0			A	9		A	9			
					B	3			B	2			B	0		B	0			
					C	0			C	0			C	0		C	0			
番犬談	太宰 治	47	33	70.2	I類	22	66.7	12	8	66.7	8	66.7	8	66.7	I類	13	62.0	I類	13	62.0
					II類	7	21.2		3	25.0		3	25.0	II類	4	19.0	II類	4	19.0	
					III類	4	12.1		1	8.3		1	8.3	III類	4	19.0	III類	4	19.0	
					A	3			A	0			A	3		A	3			
					B	0			B	0			B	0		B	0			
					C	1			C	1			C	1		C	1			
TVピープル	村上春樹	39	107	274.4	I類	62	57.9	21	5	23.8	5	23.8	5	23.8	I類	57	66.3	I類	57	66.3
					II類	23	21.5		9	42.9		9	42.9	II類	14	16.3	II類	14	16.3	
					III類	22	20.6		7	33.3		7	33.3	III類	15	17.4	III類	15	17.4	
					A	20			A	6			A	14		A	14			
					B	1			B	0			B	1		B	1			
					C	1			C	1			C	0		C	0			
ある恋の物語	村上 龍	41	46	112.2	I類	21	45.7	12	2	16.7	2	16.7	2	16.7	I類	19	55.9	I類	19	55.9
					II類	4	8.6		0	0.0		0	0.0	II類	4	11.8	II類	4	11.8	
					III類	21	45.7		10	83.3		10	83.3	III類	11	32.4	III類	11	32.4	
					A	14			A	5			A	9		A	9			
					B	3			B	2			B	1		B	1			
					C	4			C	3			C	1		C	1			

〈表5〉「韓→日小説」の受身率

作品名	韓国語			日本語訳	受身率	両方が受身形			%			韓国だけが受身形	%		
	韓国語	I類	II類			III類	I類	II類	III類	I類	II類		III類	I類	II類
금지조 (金翅鳥)	120	I類	50	115	95.8	74	I類	29	41	46	I類	21	45.7		
		II類	26	20			6	13.0							
		III類	44	25			19	41.3							
		A	37	23			14								
		B	6	1			5								
		C	1	1			0								
꿈 (夢)	106	I類	64	68	64.2	62	I類	27	6	44	I類	37	84.1		
		II類	15	12			3	6.8							
		III類	27	23			4	9.1							
		A	15	11			4								
		B	9	9			0								
		C	3	3			0								
베드민턴을 치는 여자 (バドミントンを する女)	87	I類	54	39	44.8	37	I類	21	2	50	I類	33	66.0		
		II類	29	15			14	28.0							
		III類	4	1			3	6.0							
		A	1	0			1								
		B	2	1			1								
		C	1	0			1								
하나코는 없다 (ハナコは いない)	131	I類	47	72	55	63	I類	10	9	68	I類	37	54.4		
		II類	35	25			10	14.7							
		III類	49	28			21	30.9							
		A	48	27			21								
		B	1	1			0								
		C	0	0			0								
아내의 상자 (妻の箱)	127	I類	63	65	51.2	48	I類	20	17	79	I類	43	54.4		
		II類	30	11			19	24.1							
		III類	34	17			17	21.5							
		A	30	14			16								
		B	1	0			1								
		C	3	3			0								

5 韓国語の受身表現に対する日本語の対応関係

－韓国語とヴォイスの不一致を見せる動詞および表現を中心に

前節の<表 4>と<表 5>で見たように、韓国語は日本語より受身率が高い。以下では、どういう条件が韓国語の受身率を支えているのか、《データ》を用いながらその傾向を見てみたい。

5-1 I類の受身形の場合

5-1-1 自動表現と受身表現

韓国語の受身文の多くを占めているのは、日本語は自動表現なのに韓国語は受身表現の場合である。まず、実例を幾つかのグループに分けて見てみよう。

5-1-1-1 「連体形」の場合

- (20) j. …車窓の上にぶらさがった持ち手に救命袋のようにしがみ…(夢)
 k. …차창 위에 달린 손잡이를 구명대처럼 부여잡고 앉아서 이제 …(꿈)
- (21) j. …彼の目のふちにたまった涙が目尻にひいていくのばかり…(夢)
 k. …그의 눈가에 맺힌 눈물 방울이 눈꼬리로 사그라드는 것…(꿈)

5-1-1-2 「-ている連体形」の場合

- (22) j. 黒い輪を巻いた先の尖った木の籠が合掌しているように集まっている水路… (ハナコ)
 k. 검은 테를 두른, 끝이 뾰족한 나무 등지들이 합장하듯 모여 있는 수로…(하나코)
- (23) j. …ぶらりとさがっている鼻のさきをつまんでみて, 年…(鼻)
 k. …대롱대롱 매달려 있는 코끝을 쥐어 나이값도 못하고…(코)
- (24) j. 或るいは優れた血が雜じっているのかも知れぬと思わせるところ…いつわりであった。(畜犬談)
 k. 그나마 괜찮은 피가 섞여 있었던 것으로 보이는 구석도 … 그게 아니었다. (바둑이)

5-1-1-3 「-ている終止形」の場合

- (25) j. そこで青い芹の茎が半分ほど水に浸っていた。(バド)
 k. 그 곳에 파란 미나리들의 허리가 반쯤 물에 잠겨 있었다. (배드)

(26) j. ドアが開いているんです。(妻)

k. 문이 열려 있어요. (아내)

(27)のような自動詞も韓国語の受身表現と対応している。

(27) まじる(섞이다) 集まる(모이다) 和らぐ(풀리다)

替わる(바뀌다) 混じる(뒤섞이다) つく(달리다)

たまる(맺히다) 切れる(끊기다) 浸る(잠기다)

溶ける(풀리다) 変わる(바뀌다) 散らばっている(널려 있다)

捕まる(잡히다) 裏返る(뒤집히다) 詰まる(막히다)

後ずさる(밀리다) 消える(씻기다) 取れる(잡히다)

このように、韓国語のI類の受身形の多くは日本語の自動表現と対応していることが分かる。特に、「連体形」、「-ている連体形」、「-ている終止形」の場合、日本語と韓国語の間にヴォイスの不一致が顕著に見られる。(20)～(27)の例を見ると、いずれも「状態変化」または「結果状態」を表わしていることが分かる。韓国語のこのような特徴は、次の状態変化動詞の場合にも見られる。

5-1-2 状態変化動詞

「変わる」「替わる」「代わる」または漢語の「変色する」「変容する」「変質する」など、動詞の語彙的意味に「状態変化」または「結果状態」が含まれている場合、韓国語は(28)～(32)のように受身形になる⁹⁾。

(28) j. 新聞の一面記事の主題が変わるようになり、時折は…(夢)

k. 신문의 일면 기사의 주제가 바뀌게 되었고, 가끔은…(꿈)

(29) j. かの女の住所は数回替わったか、でなければ…(ハナコ)

k. 그녀의 주소는 여러 번 바뀌었거나 아니면…(하나코)

(30) j. …アナウンサーらしく、深刻な表情に変化した。(妻)

k. …앵커답게 심각한 낯빛으로 바뀌어 있었다. (아내)

(31) j. しかし古竹が、ついに秋史によって集成され…その鳥もまた変容していった。(金翅鳥)

k. 그러나 고죽이, 끝내 추사에 의해 집성되고…그 새 또한 변용되었다. (금시조)

(32) j. そしてこんなふうに変質しはじめた雰囲気の中で当惑を…(ハナコ)

k. 그리고 이렇게 변질되기 시작하는 분위기 속에 당혹…(하나코)

5-1-3 他動詞と共起する「-てある構文」と「-ている構文」

さらに、主に場所を表わす二格と共起する「置く」「積む」「書く」または「記載する」「登録する」のような一部の他動詞が「-てある」または「-ている」動詞と共起すると、韓国語は(33)~(35)のように受身形になる。

(33) j. テーブルの上に置いてあった。(TV)

k. 테이블 위에 놓여 있다. (TV)

(34) j. 同じものが同じ場所に置いていないと、とても不機嫌になるのだ。
(TV)

k. 같은 물건이 같은 장소에 놓여 있지 않으면, 몹시 언짢아한다.
(TV)

(35) j. 私は雨の音に閉じ込められてぼおとして、流し台に積んである
洗いものの食器と、食卓の片隅にうずたかいごみ袋と…(夢)

k. 나는 빗소리에 갇혀서 멍하니, 개수대에 쌓여 있는 설거지 그릇
들과 식탁 한 켠에 수북한 쓰레기 봉투들과…(꿈)

これらの動詞は「位置変化」を表わしていて、韓国語は「状態変化」や「位置変化」を表わす場合、受身形になりやすいことが分かる。

5-1-4 視聴覚動詞

韓国語の方が日本語より受身率が高いことには日常の中で頻度の高い動詞が大きく関わっている。「見える」「聞こえる」といった視聴覚動詞の存在がそれである。まず、「見る」を見てみよう。日本語の場合、(36a)のように「見る-見える」の自他の対応と別個に(36b)のように「見られる」という受身形が存在するのに対して、韓国語は「보다-보이다」が対応していて、韓国語学ではこれを「他動-受身」の関係として捉えている。

(36) a. 見る-見える (他動-自動) 보다-보이다 (他動-受身)

b. 見る-見られる (他動-受身) 보다-?*보이어서다/* (他動-受身)

したがって、(37j)と(38j)の日本語が自動詞文であるのに対して、(37k)と(38k)の韓国語は受身文になるのである。

(37) j. あるいは彼らは遠近法のモデルみたいにも見えるとも言える。
(TV)

k. 혹은 그들은 원근법의 모델처럼 보인다고도 말할 수 있다. (TV)

(38) j. 栄吉はむかい側の料理屋の二階座敷に呼ばれてなにかうなっているのが、こちらから見えた。(伊豆)

k. 에이키치가 길 건너 요리집의 2층 술좌석에 불려 가서 무엇인가 부르고 있는 것이 이쪽에서 보였다. (이즈)

(39)のように, II類の受身形を借りて「見られる」を訳してあるが, かなり不自然な表現である。「見られる」は(40)のように能動文になるのが普通である。

(39) j. 僕は見られていた。(TV)

k. 나는 보여지고 있었다.(TV)

(40) j. 見られると悪いじゃないか。(伊豆)

k. 남이 보면 나쁘지 않니.(이즈)

(41)のように複合動詞の場合は日本語も受身形が対応している。

(41) j. …時間という湿気に浸潤されて古びてしまった建物の並んでいる通りが見下ろされる小さな部屋。(ハナコ)

k. … 시간이라는 습기에 침윤되어 남아 버린 건물들이 늘어서 있는 거리가 내려다 보이는 작은 방.(하나코)

また, 「聞く」の場合も「見る」と類似した対応関係を見せている。(42a)の「聞く－聞こえる」の自他の対応に対して, 韓国語は「듣다－들리다」が「他動－受身」の関係をなしている。

(42) a. 聞く－聞こえる(他動－自動) 듣다－들리다(他動－受身)

b. 聞く－聞かれる(他動－受身) 듣다－* (他動－受身)

c. 聞く－聞かされる(他動-使役受身) 듣다－*

そのため, (43j) と (44j) が自動詞文であるのに対して, (43k) と (44k) は受身文になる。

(43) j. 彼は梅香だけに聞こえるくらいの声で低く重々しく答えた。(金翅鳥)

k. 그는 매향에게만 들릴 만큼 낮고 침중하게 대답했다.(금시조)

(44) j. 足音も聞こえなかった。(TV)

k. 발걸음 소리도 들리지 않았다.(TV)

「聞く－聞かれる」は別の動詞が対応していて, 受身形も使役受身形もない。そのため, (45j) のような受身文に対しては (45k) のような能動文でしか対応できない。

(45) j. でもまあオレだって「じゃ何が足りないんだ」と聞かれても答えられない… (ある恋)

k. 그렇지만 ‘뭐가 부족한데’라고 물으면 대답할 말이 없으니 큰 소리칠…(어느)

日常の中で「見える」と「聞こえる」が「見られる」と「聞かれる」より頻度が高いことは言うまでもないことである。「보이다 (見える)」と「들리다 (聞こえる)」が韓国語では受身形として見做されているため、受身文の使用頻度に大きく貢献している。両語において視聴覚動詞の文法範疇のずれ、このずれが両語の受身率に大きく関与していることが分かった。<表 4>で「TV ピープル」の受身率が目立ったのはこの視聴覚動詞が多く用いられていたためである。

5-1-5 I類の受身動詞の拡張用法

I類の受身動詞の中には、以下のように慣用句に近い用法を持っている動詞も見られた。

(46) j. 幼少のころには、も少し形の均齊もとれていて… (畜犬談)

k. 더 어렸을 때는 몸의 균형이 잡혀 있으면서 그나마…(바둑이)

(47) j. それでも足りずに近所近辺の飼犬ことごとくを毒殺してしまうだろう。(畜犬談)

k. 아니, 그렇게 하는 것만으로도 직성이 풀리지 않아 동네에 있는 개란 개는 모조리 붙잡아다가 독살하게 될지도모른다. (바둑이)

(48) j. 勝負に夢中だった。(伊豆)

k. 승부에 정신이 팔려 있었다. (이즈)

(49) j. 彼女は息が詰まったが, 母親は満足そうだった。(妻)

k. 그녀는 숨이 막혔어도 어머니는 흐뭇해했다. (아내)

(50) j. いまでもさほど氣にならないような顔をしてすましている。(鼻)

k. 지금도 별로 신경이 쓰이지 않는 것 같은 얼굴로 시치미를 떼고 있지만. (코)

これらの「균형이 잡히다」「직성이 풀리다」「정신이 팔리다」「숨이 막히다」「신경(이) 쓰이다」などは受身形で用いられているが、受身の意味は非常に弱い。対応する他動詞構文があるが、日本語の訳を見れば分かるように自動詞構文に近い用法である。こういう動詞の用法も韓国語の高い受身率に関わっているのである。

5-2 II類の受身形の場合

II類の受身形の場合も，I類の受身形で取り上げたように，主に「連体形」「-ている連体形」「-ている終止形」の用法でヴォイスの不一致を見せている。例を見てみよう。

- (51) j. 向こうずねが金属にぶつかって砕ける音がし，這って行こうとしてうつ伏…(バド)
 k. 정강이가 쇠붙이에 부딪혀 깨지는 소리가 났고, 기어가느라고 엎드린…(배드)
- (52) j. 彼は答えの代わりにそんな彼女の顔をぼんやりうかがいながら，ひび割れた声で出し抜けに聞いた。(金翅鳥)
 k. 그는 대답 대신 그런 그녀의 얼굴을 멀거니 살피다가 힘없고 갈라진 목소리로 불쑥 물었다.(금시조)
- (53) j. 踊り子の今夜が汚れるのであろうかと悩ましかった。(伊豆)
 k. 무희의 오늘밤이 더럽혀지는 것일까 하고 괴로웠다.(이즈)
- (54) j. …彼の内面に隠れていた石潭先生的な氣質が古竹のその徹底した自己否定…(金翅鳥)
 k. … 그의 내면에 숨겨져 있던 석담 선생적인 기질이 고죽의 그 철저한 자기 부정…(금시조)
- (55) j. …飛行機に，青いペンキが少し剥げているのを見ること，…(夢)
 k. … 비행기에 파란 페인트가 조금 벗겨진 것을 보는 일，…(꿈)

特にこのII類の受身動詞の場合は，(53k)～(55k)に見られるように，「形容詞・自動詞・他動詞 → I類の使役動詞(1次派生) → II類の受身動詞(2次派生)」のような派生経路をたどった語も含まれている。これを整理すると，(56)のようになる。

(56) 形容詞	自動詞	他動詞	使役動詞(1次)	受身動詞(2次)
더럽다			더럽히다	더럽혀지다(汚れる)
	숨다		숨기다	숨겨지다(隠れている)
		벗다	벗기다	벗겨지다(剥げている)

II類の受身形もI類の受身形と同様「状態」または「状態変化」を表わす場合，受身形になりやすいことが分かる。

5-3 III類の受身形の場合

5-3-1 A群「되다」形の場合

日本語の自動詞のスルに対して，韓国語は同じく自動詞の「하다」で

はなく受身形の「되다」が対応している現象については先行研究で触れた。以下では、今回の《データ》から見られた幾つかの例を見てみよう。

5-3-1-1 「漢語 VN +スル」と「漢語 VN + 되다」の対応

- (57) j. ほとんど麻痺した半身のため容易ではなかった。(金翅鳥)
 k. 마비 (麻痺)되다시피한 반신 때문에 쉽지가 않았다. (금시조)
- (58) j. とうか、それに付随するあらゆるもの——要するに日曜日の夕方的状況… (TV)
 k. 아니 더 정확하게 말하면, 그에 부수 (付随)되는 모든 것-요컨대 일요일 … (TV)

この他にも (59) のような対応が見られた。

- (59) 関係したこと (관계되는 것)
関係したことで (관계된 일로)
自然流産して以来 (自然流産된 후)
充満しており (充満돼 있어)
筆才と関連した (필체와 関連된)
矛盾した二つの (矛盾된 두개의)
変容していった (변容되었다)
充血した目で (充血된 눈으로)
優性だけが遺伝し (우성만 遺傳되고)
うそのように萎縮して (거짓말처럼 萎縮되어)
麻痺したラジオの (마비된 라디오의)
進行しているとしか (進行되고 있을 것만)
興奮していた旅行 (興奮된 여행의)
涸渴したかれらは (涸渴된 그들은)
変質しはじめた (변질 되는 분위기)
変質することはないので (변질되는 일이 없어서)
靈魂が蒸発した (영혼이 蒸發돼)
法案が通過して (법안이 通過되어서)

5-3-1-2 和語と漢語 VN の場合

和語自動詞に対応する固有語動詞がない場合、韓国語は (60)~(63) のように、「漢語 VN +되다」形になることが多い。このような対応も韓国語の受身率を支えている。

- (60) j. 暁から始まったその作業は朝日が高く昇るまで続けられた。(金

翅鳥)

- k. 새벽부터 시작 (始作) 된 그 작업은 아침해가 높이 솟을 때까지 계속되었다.
- (61) j. …酒を飲みに行き, キューバ産のラムで指先と唇がしびれてくるくらい酔って… (ある恋)
- k. …술을 마시러 가서, 쿠바 산 럼주로 손가락과 입술이 마비(麻痺) 될 때까지…(어느)
- (62) j. 全然つながらなかったのだ。(ある恋)
- k. 전화선이 연결(連結) 되지 않았었다. (어느)
- (63) j. 私の指先に固い緊張感がはっきりと伝わって来た。(夢)
- k. 내 손끝으로 딱딱한 긴장감이 분명하게 전달 (伝達) 되어 왔다. (꿈)

5-3-1-3 和語の漢語 VN 読みの場合

韓国語の場合, 和語を漢語読みし, 語彙の中に取り入れたのも数多くある。(64)と(65)のような例を見てみよう。

- (64) j. それは明確な死の予感と結びつくものだった。(金翅鳥)
- k. 그것은 명확한 죽음의 예감과 결부된 것이었다. (금시조)
- (65) j. …二つの相反する欲求がたくみに折衷されて, そんなあだなが付けられたのだ。(ハナコ)
- k. …두 가지의 상반된 욕구가 교묘하게 절충되면서 그런 별명이 붙여졌던 것이다. (하나코)

《データ》から日本語の自動詞スルに対して, B 群の「받다」形または C 群の「당하다」形が対応している例は見られなかった。これは, 「되다」形が主格標示の NP としか共起できないのに対して, 「받다」形と「당하다」形は対格標示の NP と共起できる項構造を持っていることと関係があると思われる。

対格標示の NP と共起する「받다」と「당하다」構文の場合, 塚本・鄭(1995)のように受身形ではなく本動詞扱いをする研究もあるが, 尹(2001)で取り上げたように, 韓国語の場合, 対格標示は日本語ほど統語的制約を受けていないため, 前後の修飾関係によって共起有無がわりと自由である。(66)～(69)の例を見てみよう。

- (66) j. そうやって泣く客をオレ達ボーイは上手に無視できるように訓練されている。(ある恋)

- k. 그렇게 우는 손님을 우리 보이들은 자연스럽게 못 본 척하는 훈련을 받는다. (어느)
- (67) j. 何かものすごく重要なことが足りない…中世の魔女裁判のように 迫害される。 (ある恋)
- k. 뭔가 결정적으로 중요한 것이 결여…중세의 마녀 재판처럼 박해를 받는다. (어느)
- (68) j. 質問されたのは詩人自身だったが、私の顔がまずこわばってしまった。(夢)
- k. 질문을 받은 것은 시인 자신이었지만 내 얼굴이 먼저 굳어져 버렸다. (꿈)
- (69) j. 目の前にいる他人からそんな風にきっちりと存在を無視されると, … (TV)
- k. 눈앞에 있는 타인에게 그런 식으로 깨끗하게 존재를 무시당하면, … (TV)

5-3-1-4 自他両用動詞の存在

先行研究で取り上げたように、自他両用動詞の場合、自動詞に対して韓国語は受身形が対応する。《データ》から以下のような例が見られた。

- (70) j. 人は傷が回復した後にも、身体に残るその傷の痕跡によって傷を記憶する。(妻)
- k. 사람들은 상처가 회복된 다음에도 몸에 남아 있는 흉터로써 그 상처를 기억한다. (아내)
- (71).j. それが卵形のりりしい顔を非常に小さく見せながらも、美しく調和していた。(伊豆)
- k. 그것이 계란형의 씩씩한 얼굴을 아주 작아 보이게 하면서도 아름답게 조화되어 있었다. (이즈)

5-3-1-5 「～이/가 되다 (～になる)」構文との曖昧な関係

<表 4>と<表 5>から分かるように、Ⅲ類の受身形の場合、A 群の「되다」の使用が目立つ。これには、「～이/가 되다 (～になる)」構文が関係あると思われる。その関係を見てみよう。Ⅲ類の受身接辞「되다」の本動詞としての構文および意味は(72)のように動詞ナルに近い。

- (72) j. 彼が大統領になった。
- k. 그가 대통령이 되었다. (東亞)

ナルは、常に二格と共起するが、「되다」は漢語 VN との関係におい

て二格に相当する助詞「이/가」が省略される場合が多い。(73) と (74) のような例を見てみよう。

(73) j. つながらなかった。(妻)

k. 연결이 되지 않았다. (아내)

(74) j. 全然つながらなかったのだ。(ある恋)

k. 전화선이 연결되지 않았었다. (어느)

このように、「～になる」の意味合いを持つ「～이/가 되다」構文が、助詞が省略された形で「漢語 VN 되다」構文に合流している可能性も高いが、その判定は難しい。この点については、いずれ統語的フィルターを用いてのテストおよび整理が必要であると思う。

5-3-2 B群「받다」形の場合

5-3-2-1 「받다」形の特徴

Ⅲ類の受身形 B 群「받다」は「되다」形に比べそれほど生産的ではない。それは<表 4>と<表 5>のデータからも確認できる。《データ》に見られた例を見てみよう。

(75) j. 今私たちはニュータウンで分譲された二十八坪のマンションに住んでいます。(夢)

k. 이제 우리는 신도시에 분양받은 28평짜리 아파트에 삽니다. (꿈)

(76) j. そこにはかの女たちが偶然参加したイタリア主催の国際インテリアデザイナー大会から始まって、将来を嘱望される独創性をもった一組のデザイナーとして独立するまでの過程… (ハナコ)

k. 거기에는 그들이 우연히 참여한 이탈리아 주최 국제 인테리어 디자이너 대회에서 시작해 촉망받는 독창성을 지닌 한 쌍의 디자이너로 독립하기까지의 과정… (하나코)

5-3-2-2 「받다」と「受ける・もらう」の関係

「받다」の本動詞としての中心的意味は「受ける・もらう」である。文によっては、授受動詞の「주다」と対をなす場合があるため、日本語との対応において微妙なずれが生ずる。その例を見てみよう。

(77) j. しかし、世間の人たちの称賛を聞けば聞くほど不思議にも彼は師の称賛を受けたかった。(金翅鳥)

k. 그러나 세상 사람들의 칭송을 들으면 들을수록 이상하게도 그는 스승의 칭찬을 받고 싶었다. (금시조)

(78) j. …彼女が花屋で注文を受けた花輪を作りながらバラを挿すところ

に菊を挿して… (バド)

- k. … 그녀가 화원에서 주문받은 화환을 만들면서 장미를 꽃을 자리에 국화를 꽃고 있으면… 배드)

(77) と (78) の場合, 日本語は他動詞文であるが, 韓国語は受身文になる。韓国語は「称賛하다－称賛받다」, 「注文하다－注文받다」という受身形式の認定範囲に収まるが, 日本語はその範囲の外側にあるからである。

その反対の例もある。(79) の場合は日本語は受身文であるが, 韓国語は受身文として認められない。それは, 対応する能動文の述語が「*상처(를)하다」ではなく「상처(를) 주다」であり, 授受動詞の用法になるからである。

- (79) j. 内供は実にこの鼻によってきずつけられる自尊心のために苦しんだのである。(鼻)

- k. 나이구는 실은 이 코로 인해 상처 받는 자존심 때문에 괴로워했던 것이다.(코)

5-3-3 C群「당하다」形の場合

「받다」形と同様, それほど生産的ではない。「받다」形のような授受動詞との重なりはないが, 「やられる」という「被害」の意味合いを帯びる場合が多い。例を見てみよう。

- (80) j. それに, それまで抑えつけられ節制されていた彼の血もそこにはしっかり一役買っていた。(金翅鳥)

- k. 거기다가 그때까지 억눌리고 절제당해왔던 그의 피도 한몫을 단단히 했다.(금시조)

- (81) j. 彼が解雇された後には, 彼が通っていた工場の前に定食…(夢)

- k. 그가 해고당한 후에는 그가 다니던 공장 앞에 분식집…(꿈)

ここまで, 韓国語の高い受身率に関わっている動詞および表現の特徴を見てきた。韓国語の受身はI類の受身動詞の用法, 状態変化動詞の用法, 視聴覚動詞の用法から語彙的側面が強いことが浮き彫りになったと思われる。語彙的側面が強い, ということは受身の仕組みが生産的ではないことを表わす。韓国語のこのような特徴が日本語の受身文との対応においてどのような様相を見せているのかを次節で見よう。

6 日本語の受身表現に対する韓国語の対応関係

－日本語とヴォイスの不一致を見せる動詞および表現を中心に

6-1 自発動詞

- (82) j. 思い出された。(夢)
 k. 생각이 났다. (꿈)
 (83) j. 思い出された。(ハナコ)
 k. 기억이 났다. (하나코)
 (84) j. 思い出される。(金翅鳥)
 k. 떠오른다. (금시조)
 (85) j. 思い返された。(夢)
 k. 떠올랐다. (꿈)
 (86) j. 思われる。(金翅鳥)
 k. 생각이 들었다. (금시조)

(82)～(86)に見られるように、「思い出される」「思い返される」「思われる」のような表現は韓国語では自動表現になっている。「思い知らされる」などは訳し難い。

また、(87)～(88)に見られるように、「生まれる」も韓国語では「태어나다」または「나다」という自動表現で用いられる。(89)の例も含めて、これには自動詞「나다」の「自発」や「状態変化」という語彙的特徴が関わっていると思われるが、本稿ではこれの指摘に留まる。

- (87) j. うまれて初めて (ハナコ)
 k. 태어나 처음으로 (하나코)
 (88) j. 在植は死んだ本妻から生まれた総領だった。(金翅鳥)
 k. 재식이는 죽은 본처에게서 난 맡아들이었다. (금시조)
 (89) j. わずか一三歳のとき母を失い、腹違いの秋水の手で育てられたせいだろう。(金翅鳥)
 k. 겨우 열세 살 때 어머니를 잃고 이복누이인 추수 손에 자라난 탓이리라. (금시조)

6-2 自動詞の受身文

- (90) j. …ウロン者として吠えられるかも知れないから… (畜犬談)
 k. …수상한 놈으로 보여서 들입다 짚게 될지도…(바독이)
 (91) j. ついて来られて, たまるものか。(畜犬談)

k. 따라 오려 하다니 그게 될 말인가. (바둑이)

6-3 使役受身文

(92) j. この犬には、幾度泣かされたかわからない。(畜犬談)

k. 나는 이 개 때문에 얼마나 애를 먹었는지 모른다. (바둑이)

(93) j. おかげで私は外出のたびごとに、ずいぶん暗い憂鬱な気持ちにさせられた。(畜犬談)

k. 때문에 나는 외출할 때면 언제나 기분이 우울해지기만 한다. (바둑이)

(90) と (91) の「自動詞の受身文」と (92) と (93) の「使役受身文」は韓国語では対応できない仕組みである。言い換えれば、日本語固有の受身タイプである。〈表 4〉の「畜犬談」において韓国語の受身率が低かったのは、すなわち韓国語が対応できなかったのはこの作品に描かれている状況に自動詞の受身と使役受身が用いられていたからである。

6-4 語彙的受身文

韓国語には、意味的に受身を表わし、統語的に「~에게 맞다 (～に打たれる)」「~에게 야단맞다 (～に叱られる)」「~에게 얻어맞다 (～に殴られる)」「~에게 꾸중듣다 (～に叱られる)」のように受身文と平行しているが、形態的に対応関係をなしていない、いわば「語彙的受身動詞」がある。

(94) j. 鼻をうたれまい。(鼻)

k. 코를 맞지 않을래. (코)

(95) j. 叱られるから帰ります。(伊豆)

k. 야단을 맞으니까 돌아갑니다. (이즈)

(96) j. チェに殴られたときに切れた彼女の耳の付け根がぶくぶく腫れ上がって… (바드)

k. 최에게서 얻어맞았을 때 터진 그녀의 귀가 뺨 쪽으로 퐁퐁 부어 올라서… (배드)

(97) j. その師から叱られながらも参加した何回かの鮮展入選… (金翅鳥)

k. 그 스승에게 꾸중을 들어가며 참가한 몇 번의… (금시조)

視聴覚動詞と同様、これらの動詞も日常の中で使用頻度が高いため、前者が韓国語の受身率に大きく貢献しているのに対して、後者は日本語の受身率に大きく貢献しているのである。特に、(98) のような受身文の場合、韓国語は能動文でしか対応できない。動作主が非情物であるため、動作主

マーカーが「에게/한테 (に)」から「를 (を)」に替わっている。この文は、「雨に降られる(비를 맞다)」と平行している。

(98) j. オレは自分でもあまり頭がいいとは思わないが, 瀧に打たれて 自己満足するのがアホだ… (ある恋)

k1. 맞다- * 맞 + pass.

k2. 나는 머리가 별로 좋은 편은 아니지만, 폭포수를 맞으며 앉아 있는 것이… (어느)

このように、能動表現に対応する受身表現が語彙レベルで存在する場合と統語レベルで存在する場合がある。どういう意味内容が語彙化しているのかは言語によって異なるが、日常の中で頻度の高い動詞ほどその言語を特徴付けることになる。

6-5 対応する受身形が韓国語に存在しない場合

6-5-1 「非 VN+하다」形

韓国語のⅢ類の受身形「되다」「받다」「당하다」は、(13)に示したように、「VN+하다」形には対応できる。しかし、「非 VN+하다」の場合は対応できないため、(99)と(100)の「말-하다」「향-하다」のような「一音節語+하다」類⁹⁾または(101)と(102)の「좋아-하다」「미워-하다」のような「形容詞派生の他動詞」などには能動文が対応している。

(99) j. …オレは二歳も年下の上役にそんなことを言われたんだよ, まあ予感は… (ある恋)

k1. 말하다 - * 말 + pass.

k2. …두 살이나 아래인 상사에게 그런 말을 들었다구, 감은… (어느)

(100) j. テレビの画面は僕に真正面を向けられて据えられていた。(TV)

k1. 향하다 - * 향 + pass.

k2. 텔레비전은 나의 정면을 향하여 놓여 있다. (TV)

(101) j. 私は、犬に好かれてしまったのである。(畜犬談)

k1. 좋아하다 - * 좋아 + pass.

k2. 개들이 나를 좋아하게 된 것이다. (바둑이)

(102) j. あんた, 嫌われてんだよ, 地球全部から。(ある恋)

k1. 미워하다 - * 미워 + pass.

k2. 당신, 미움받는 줄 몰라요, 전 세계로부터. (어느)

6-5-2 対格標示の NP が共起する受身文

(103) の (a) ~ (e) のように、対格標示の NP が共起している日本語の受身文は韓国語に訳せない場合が多い。

- (103) a. 彼女は職場に電話をかけられることをあまり…(TV)
 b. 手を触れられるのも好まない。(TV)
 c. テレビの画面は僕に真正面を向けられて据えられていた。(TV)
 d. 養分をすっかり吸い取られたあとの声だ。(TV)
 e. それまで自分が無意識に身を置いていた世界のバランスが絶対的なものではなかったことを思い知らされる。(TV)

一部の I 類の受身動詞は (104) のように対応する受身文が作れる。しかし、第 3 節で述べたように、韓国語の I 類の受身動詞の数は限られている。これも (104) に見られるように、ほとんどが身体の一部を対象化した用法に限られる。

- (104) j. ところが鼻をふまれているので思うように首がうごかない。(鼻)
 k. 그렇지만 코를 뻘뻘 있고 있는 터라 생각대로 고개가 움직여지지 않는다. (코)

Ⅲ類の「받다」形と「당하다」形も対格標示の NP と共起できるが、VN 形に限られるため、(103) のような非 VN 形には対応できない。今回、《データ》から得られた例を見てみよう。

- (105) j. しかし市民社会の形成とともに彼らの芸術は主体性を獲得し八方美人のような東洋の芸術家とは異なるその特有な人間性が認められるようになった。(金翅鳥)
 k. 그러나 시민사회의 형성과 더불어 그들의 예술은 주체성을 획득하고 팔방미인격인 동양의 예술가와는 다른 특유의 인간성을 승인받았다. (금시조)
 (106) j. 目の前にいる他人からそんな風にきっちりと存在を無視されると、自分でも自分がそこに存在しているかどうかだんだん確信が持てなくなってくるものなのだ。(TV)
 k. 눈앞에 있는 타인에게 그런 식으로 깨끗하게 존재를 무시당하면 스스로도 자신이 거기에 존재하는지 아닌지 점차 확신할 수 없게 되는 법이다. (TV)

6-5-3 その他

また、今回の《データ》から (107) のような非対応の例も見られた。

- (107) a. 怒られるし…(꾸짖다- *꾸짖 +pass.) (ある恋)
 b. ジュンイチから教えられたから…(배우다- *배우 +pass.)
 (ある恋)
 c. CD がオレに買われるのを待っていた。(사다- *사 +pass.)
 (ある恋)
 d. あなたにはあの時助けられたけど…(돕다- *돕 +pass.) (ある恋)

ここまで、日本語の受身文に対して韓国語の非対応の様相を中心に取り上げてみた。日本語の受身が「構造的」かつ「生産的」であるのに対して、韓国語は前節での考察を考え合わせると「語彙的」かつ「制限的」と言えよう。

7 まとめ

本稿では、韓国語と日本語の受身文の特徴をそれぞれの言語に翻訳された小説のデータを用いて分析を試みた。以上の考察から、「はじめに」に取り上げた先行研究での捉え方の違いの一端が明らかになったとともに、従来、部分的にしか取り上げられなかった両語の受身の用法の相違も浮き彫りになったと思われる。日本語の受身文と韓国語の受身文はそれぞれが担っている領域が異なる、すなわち日本語の受身文が「受身」という機能に重心が置かれているとすれば、韓国語の受身文は「状態変化」「結果状態」に重心が置かれている、と言えるのではなかろうか。また、日本語が構造的・生産的に受身文を作り出せるのに対して、韓国語は語彙的・制限的にしか受身文を作り出せない。両語のこのような関係を纏めると、<表6>のようになると思われる。

<表6>日本語と韓国語の自動および受身の対応関係

日本語	自動	非対応①	受身
韓国語	自動	受身	非対応②

「非対応①」は主に「状態変化」を表わし、「非対応②」は「構造的受身」を表わす。この<表6>から分かるように、日本語と韓国語は自動表現から受身表現へのヴォイスコードの切り替えのスタート地点が異なる。韓国語が「状態変化」から受身形にヴォイスコードの切り替えが行われるのに対して、日本語は受身本来の機能の地点で受身形にヴォイスコードの切り替えが行われる。このずれは、日本語の場合、「状態変化」または

「結果状態」を有対自動詞がある程度受容しているからであろう。この点は、早津(1990)の考察からも裏付けられると思われる。

したがって日本語の自動表現に対して韓国語の受身表現を取り上げた先行研究の焦点は「非対応①」にあり、韓国語の受身文を日本語と比較して韓国語の制約性を唱えたもう一方の先行研究の焦点は「非対応②」にあることが分かった。

8 おわりに

本稿では、日本語と韓国語の受身表現の対応関係を取り上げ、その違いを中心に考察を行った。しかし、これはあくまでも形態を中心にした捉え方であり、受身とは、自動とは、といったヴォイスの根本的な問題と関連づけることはできなかった。両語の受身を理論的枠組みの中で捉えるのは今後の課題にしたい。

注

- 1 本稿では、「受身表現」「受身」「受身文」「受身形」「受身形式」などの用語が厳密に定義されていないが、受身全般を指す場合は「受身」、自動表現との対応関係から述べる場合は「受身表現」、形態を中心に述べる場合は「受身形」を用いるなど、文脈によって使い分けされている。日本語学では受身が意味を中心に捉えられている傾向が強い反面、韓国語学では形態を中心に捉えられている傾向が強い。本稿での考察から明らかになってくると思うが、このような捉え方の違いには、両語の受身文の生産性と安定性が大きく関わっている。これは両語の受身研究にも影響を及ぼしている。日韓対照言語学では、この辺の整理が大きな課題ではないかと思われる。
- 2 韓国語学では普通受身文は「被動文」、使役文は「使動文」という用語で用いられている。
- 3 一部の一音節漢語他動詞もこの派生法をとる。
- 4 褒禧任(1988)は「生産性」の問題を取り上げ、B群の「받다」とC群の「당하다」を受身形から除外している。しかし、生産性レベルが問題になるなら、一番低いのは最も典型的な受身形として取り上げられているI類の受身形である。
- 5 「変」が含まれる漢語VNのすべてが受身形を取るわけではない。例えば、

「突変」「急変」の場合は接辞が「되다」ではなく「하다」である。これは、「변하다」という自動詞の用法と関係があると思われる。

- ⁶ 「行う-行われる」のペアに対して「行하다-行해지다」が成り立つが、それほど生産的ではない。

参考文献

- 李翊燮・蔡琬 (1999), 『国語文法論講義』, 学研社
 禹仁恵 (1997), 『우리말 被動研究』, 韓国文化社
 生越直樹 (1982), 「日本語漢語動詞における能動と受動: 朝鮮語 hata 動詞との対照」, 『日本語教育』48, 日本語教育学会
 ——— (2001a), 「現代朝鮮語の하다 動詞における 하다 形と되다 形」, 『朝鮮文化研究』8, 東京大学大学院人文社会系研究科附属文化交流施設朝鮮文化部門
 ——— (2001b), 「하다 動詞의 하다 形・되다 形の使い方について—インフォーマント調査の結果から—」, 『韓日語文学論叢』, 太学社
 ——— (2003), 「[[受身]の類型論] (井上・木村) に対するコメント」, 『公開研究会東アジア諸語のカテゴリー化と文法化に関する対照研究』, ms
 金慶珠 (2001), 「談話構成における母語話者と学習者の視点—日韓両国語における主語と動詞の用い方を中心に」, 『日本語教育』109, 日本語教育学会
 金允信 (2001), 「派生動詞의 語彙意味構造」, ソウル大学大学院言語学科博士論文
 権在日 (1994), 『韓国語 文法의 研究』, 瑞光学術資料社
 ——— (1998), 『韓国語文法史』, 図書出版 博而精
 辛碩基 (1993), 「日本語と韓国語の漢語動詞」, 『日本語と日本文学』18, つくば大学国語国文学会
 鄭惠先 (2002), 「日本語と韓国語の人称詞の使用頻度」, 『日本語教育』114, 日本語教育学会
 崔鉉培 (1929/1994), 『우리말본』, 正音文化社
 塚本秀樹・鄭相哲 (1995), 「韓国語における漢語動詞の受身文について」, 『朝鮮学報』153, 朝鮮学会
 南基心 (2001), 『現代国語統辞論』, 太学社
 南基心・高永根 (1985), 『標準国語文法論』(改定版), 塔出版社
 早津恵美子 (1990), 「有对他動詞の受身表現について」, 『日本語学』9-5, 明治書院
 許明子 (2001), 「韓国語の被動文の語用的特徴について」, 『韓日語文学論叢』, 太学社
 襄禧任 (1988), 『国語被動研究』, 高麗大学校民族文化研究所
 尹亭仁 (2001), 「韓国語と日本語における二重対格標示について—成立条件を中心に」, 『日本学報』47, 韓国日本学会

- 尹亭仁 (2002), 「日本語と韓国語の漢語動名詞の統語範疇をめぐって」, 『神奈川大学言語研究』25, 神奈川大学言語研究センター
- 鷲尾龍一 (1998), 「韓国語漢語動詞における動詞選択の問題－「對應 하다, 對應 되다」の場合」, 『先端的言語理論の構築とその多角的な実証 (2-A)』, COE 形成基礎研究費報告書

出典一覧

- [日] 日本語版国語史 (韓国語の歴史, 李基文) / 辞 (大辞林) / 用法 (日本語基本動詞用法辞典)
- [韓] 国語史 (『国語史概説』, 李基文) / 등대 (등대지기, 조창인) / 사슴 (사슴벌레여자, 윤대녕) / 식사 (식사의 즐거움, 하성란)